

## 姉妹都市派遣との関係

瀧川 拓史

私の姉妹都市派遣との関わりも、今年で7年目を迎えました。2011年にトーランスに派遣され、その後も委員会メンバーとして派遣活動に携わってきました。2012年にグアムに派遣された弟のカウンターパートだった男の子は当時中学生でしたが、今では大学生になりました。5月には家族で日本に遊びに来てくれ、初めて家族同士で顔を合わせることができました。カウンターパート同士の家にステイするというのはグアム派遣の特徴ですが、ホストファミリーとしてお互いにお世話したからこそ、こういった家族ぐるみの付き合いができ、絆を深めることができるのだと思います。

グアム滞在中には、柏生にスピーチをさせるという一幕もありました。帰国の2日前にホストファミリーも含めた全員と一緒に食事をする機会があり、予定にはなかったですが、そこで柏生が1人ずつスピーチをしました。準備時間もほとんどなく、流暢な英語ではなかったとしても、感謝の思いを言葉にして一生懸命伝えることで、とても和やかな雰囲気になりました。フリーデイにどこに行ったか、何が楽しかったか、何が印象に残っているか、といったことをホストファミリーに伝える機会を持つことは、一週間の滞在のお礼になるのではないかなと思います。これは、時間をかけて作ったから伝わるというものではなく、実際に経験し、感じたことを言葉に乗せるから作ることができる雰囲気だと思うので、今後も変わらずにこのような機会を持ち、派遣生にはチャレンジして欲しいです。

最後になりますが、私もこの姉妹都市派遣の卒業生の1人です。トーランスと一緒に派遣された当時高校生の男の子は、アメリカの大学に進学し、グアムに引率した当時中学生の女の子は、高校生になってオーストラリアに1年間留学しました。そういう私も、今秋からアメリカの大学院に進学します。海外に行けば良いという意味ではなく、振り返った時に「あの派遣をきっかけに色々変わったね」と言えるように、この派遣で感じたことを大切に、目標に向かって頑張りたいと思います。そして、この活動をサポートしてくれた皆様に感謝し、今後も活動が継続され、派遣生がホストファミリーの温かい歓迎に触れながら成長する機会が与え続けられることを願っています。

グアム空港での歓迎の様子

